

運動部活動における選手が求める指導者像についての一考察

－選手のパーソナリティ及び指導スタイルに着目して－

大谷朝香 (長崎大学)

1. 目的

本研究の目的は、運動部活動において選手のパーソナリティや指導者の指導スタイルの違いによって選手の求める指導者像に差異があるのかを明らかにすることである。

2. 研究方法

- 1) 対象者:N大学の学生88名(中学校もしくは高等学校時に運動部に所属していた人)
- 2) 調査方法:パーソナリティ特性検査(MPI)及びフェイスシートによる質問紙で実施。フェイスシートは6つの質問紙項目を選択式及び自由記述で回答を求めた。
- 3) 分析方法:質問紙の結果から、被験者をパーソナリティ別と指導スタイル別に分類し、求める指導者像の回答をそれぞれ KJ 法によりカテゴリー化し、比較、検討を行う。

3. 結果と考察

1) パーソナリティ別にみた求める指導者像

MPIの結果から、内向型は14%、外向型は69%であった。求める指導者像について、「教わりたい指導者」において内向型は6つ、外向型は8つのカテゴリーに分類した。「教わりたくない指導者」においては、内向型は5つ、外向型は7つのカテゴリーに分類した。それらを比較したところ、5つのカテゴリーが共通していた(表1)。

表1 共通カテゴリー

教わりたい指導者	教わりたくない指導者
【選手と良好な関係を築く】	《活動に消極的である》
【豊かな専門性がある】	《指導力が低い》
【指導力が高い】	《豊かな専門性がない》
【親しみやすい性格】	《感情的な性格》
【活動に積極的である】	《指導に偏りがある》

これらの結果から、パーソナリティが違えども選手が指導者に求めていることは共通しているといえる。

2) 指導スタイル別にみた求める指導者像

中学校・高等学校の両方において、同じ指導スタイルを受けてきた選手は、民主型14%、専制型33%であった。求める指導者像について、「教わりたい指導者」において民主型は4つ、専制型は8つのカテゴリーに分類した。「教わりたくない指導者」においては、民主型は4つ、専制型は6つのカテゴリーに分類した。それらを比較したところ、【選手と良好な関係を築く】【活動に積極的である】【豊かな専門性】といった3つのカテゴリーが共通しており、民主型には【親しみやすい性格】専制型には【指導力が高い】【温かみのある性格】【活気溢れる性格】《支配的》といった特徴的なカテゴリーがみられた。これらは、それぞれの指導スタイルの特徴に沿ったカテゴリーであることから、選手が指導者の影響を受けていることが考えられる。

4. 結論

本研究では、パーソナリティが異なっても、選手が指導者に求めていることにほとんど差異はなく共通していることが明らかになった。また、指導者の指導が選手に影響していることが示唆された。

5. 主な参考文献

- 1) 直井勇人ほか、高校球児が求める指導者像、野球科学研究、2:30-45、2018
- 2) レイナー・マートン:大森俊夫・山田茂監訳、スポーツ・コーチング、西村書店、2013